

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道497号 <small>いまじゆくどうろ</small> 今宿道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局		
起終点 自：福岡県福岡市西区拾六町 <small>ふくおかしにしきじゅうろくちょう</small> 至：福岡県糸島市二丈福井 <small>いとしましにじょうふくい</small>	延長 23.3km			
事業概要 今宿道路は、西九州自動車道の一部を形成し、九州北西部の地域経済の活性化、高速定時性を確保するとともに、沿線地域の交通混雑を緩和し、地域開発の支援等を目的とした事業である。				
S45年度事業化	S46,53,58,61年度都市計画決定 (H4,13年度変更)	S47年度用地着手	S47年度工事着手	
全体事業費	約2,746億円	事業進捗率	83%	
		供用済延長	(自専部)14.5km (一般部)20.6km	
計画交通量 (自専部) 17,400~32,800台/日、(一般部) 4,100~50,300台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.8 (残事業) 2.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 313/4,907億円 (事業費：294/4,569億円) (維持管理費：19/338億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 809/18,876億円 (走行時間短縮便益：733/16,974億円) (走行経費減少便益：60/1,455億円) (交通事故減少便益：16/447億円)	基準年 平成26年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=3.7~4.1 (交通量 ±10%) 【残事業】交通量：B/C=2.3~3.0 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=3.8~3.9 (事業費 ±10%) 事業費：B/C=2.4~2.9 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=3.8~3.9 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.3~2.8 (事業期間±20%)				
事業の効果等 ①広域交通ネットワークの形成 ・沿線各都市間の所要時間短縮による九州北西部の地域経済活性化及び高速定時性の確保 ②地域経済活動の支援 ・重要港湾（伊万里港、唐津港）等からの輸送時間短縮に伴う物流活動の円滑化及び活性化 ③交通混雑の緩和 ・並行する国道202号現道の交通混雑緩和及び旅行速度の向上 ④産業振興の支援 ・前原IC周辺への進出企業数の増加 ・沿線まちづくりとの連携 ・観光地までの移動円滑化に伴う観光入込客数の増加 ⑤医療施設までのアクセス改善 ・第三次救急医療施設（福岡大学病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ⑥公共交通の利便性向上 ・高速バス（伊万里～唐津～福岡、唐津～福岡）の所要時間の短縮 ⑦生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）				
関係する地方公共団体等の意見 福岡県内28市で構成される①福岡県市長会（会長：久留米市長）、福岡市をはじめとする9市8町で構成される②福岡都市圏広域行政推進協議会（会長：福岡市長）、西九州自動車道沿線の8市4町で構成される③西九州自動車道建設促進期成会（会長：伊万里市長）により早期整備の要望を受けている。（①平成26年6月、②平成26年8月、③平成26年10月）				

県の意見：

西九州自動車道 今宿道路は九州横断自動車道などと連携し、九州北西部の広域交通ネットワークを担うとともに、糸島地域を中心とした九州大学学術研究都市構想をはじめ地域の活性化にとっても必要な道路であり、事業を継続すべきと考える。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は増加傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は近年減少傾向。並行する国道202号現道の交通量は横這い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

昭和45年度に事業化、用地進捗率92%、事業進捗率83%（平成26年3月末時点）

昭和58年度：上深江交差点～糸島市二丈福井間 延長5.8km（一般部2/4）部分開通

昭和63年度：真方交差点～東交差点間 延長0.5km（一般部2/2）部分開通

平成4年度：波多江交差点～有田中央交差点間 延長2.2km（一般部2/4）部分開通

平成10～15年度：福重JCT～東交差点間 延長14.5km（自専部4/4）部分開通

平成16年度：東交差点～上深江交差点間 延長3.0km（一般部2/2）部分開通

平成18年度：青果市場入口交差点～飯氏交差点間 延長7.4km（一般部4/4）部分開通

平成25年度：飯氏交差点～波多江交差点間 延長1.7km（一般部4/4）部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成26年度：波多江交差点～有田中央交差点間 延長2.2km（一般部4/4）開通予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

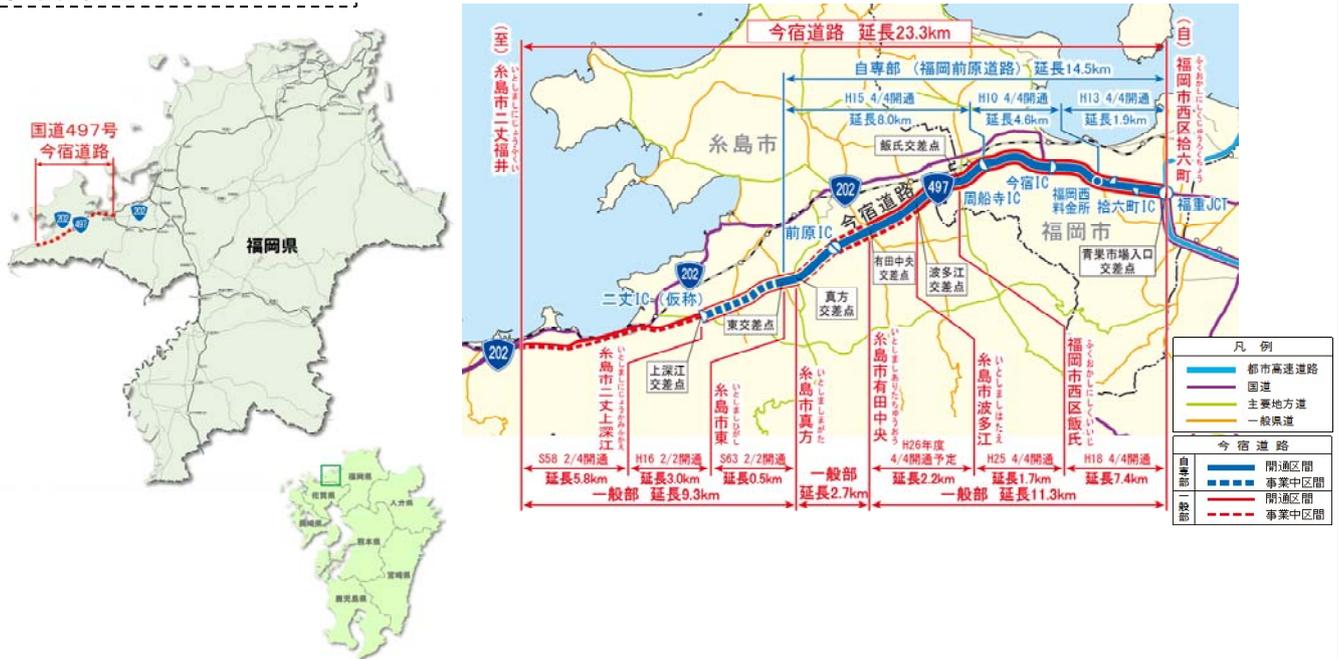
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。